

# ユニセフ 活動の成果 2024

unicef   
for every child



表紙：

余暇に編み物を楽しむ11歳の  
ヴァンコ・クリステラ・イラコゼさん

**ルワンダ、2024年12月**

© UNICEF/UNI725194/Iyakaremye



# ユニセフ 活動の成果

# 2024

## 目次

### 1:

#### 目標分野

##### 目標分野1

すべての子どもが  
命を守られ、  
健全に発育すること ..... 10

##### 目標分野2

すべての子どもが  
学ぶ機会を得ること ..... 12

##### 目標分野3

すべての子どもが  
暴力や搾取から  
守られること ..... 14

##### 目標分野4

すべての子どもが  
安全で衛生的な環境で  
暮らすこと ..... 16

##### 目標分野5

すべての子どもが  
人生において公平な  
機会を得ること ..... 18

人道支援 ..... 20



### 2:

#### 変革戦略

変革を実現するための  
アドボカシー（政策  
提言）と広報活動 ..... 22

不可欠な物資を支える  
グローバル  
ネットワーク ..... 23

若者の参加を推進する ..... 24

地域社会の関与と  
社会・行動変容 ..... 25

ジェンダー平等の  
実現 ..... 25

イノベーションの  
活用 ..... 25



### 3:

#### 財政

財政 ..... 26



はじめに ..... 03

子どもたちに寄り添い、支援を届ける ..... 05

2024年 ユニセフの活動における10の成果 ..... 07

若いユー・レポーターたちが、  
ユニセフが支援するコートジボ  
ワール南部アビジャン・アニヤ  
マの盲学校「マウント・カーメ  
ル」を訪れ、子どもたちと交流  
しました

コートジボワール、  
2024年10月

©UNICEF/UNI668760/Dejongh



「世界子どもの日」に、コートジ  
ボワール南部アビジャンの国民  
議会に子どもたちが集まり、声  
を届けました

コートジボワール、  
2024年11月20日

© UNICEF/UNI677394/

# はじめに



## キャサリン・ラッセル

ユニセフ事務局長

2024年は、世界の子どもたちにとって本当に厳しい一年でした。激化する紛争、気候変動の衝撃、そして貧困の中で、子どもたちの支援ニーズは急増しましたが、それに応えるための資源は減り続けました。

それでも、今年の年次報告が示すように、ユニセフは190を超える国と地域で活動し、最も支援が届きにくい場所においても、数百万の子どもたちの命を守り、生活を支えてきました。また、パートナーとともに、安全な水と衛生、子どもの保護と心のケア、保健、栄養、予防接種、教育や技能開発などのサービスを子どもたちに届け続けました。

2025年の世界も引き続き、大きな政治的変動と不安定性、経済の先行きの不透明さ、そして深刻化する人道危機に直面しています。こうした中でユニセフには、必要な支援を子どもたちに届けるために最善を尽くすことが求められています。

しかし今、すでに発表された資金削減や今後予想される削減により、私たちは支援を最も必要としている数百万の子どもたちに十分に手を差し伸べることができずにいます。こうした削減が、世界的な資金危機を引き起こし、さらに数百万の子どもたちの命を危険にさらそうとしています。

今日の世界はすべてがつながっています。どこかで支援が途絶えれば、世界全体の安全や経済の安定にも影響を及ぼしてしまうのです。

支援を必要とする人々は増え続けていますが、それに見合う資金は十分ではありません。だからこそ私たちは、託された貴重な資源を最大限に活かす責任を果たさなければなりません。常に業務や資源のあり方を見直し、より迅速かつ効率的に、多様な状況へ柔軟に対応できるよう、ユニセフは改善を重ねています。

例えば、子どもたちを取り巻く状況が急速に変化していることを把握し、意思決定者に情報を迅速に届けられるよう、AIなどの新しいツールを活用してデータや分析力を強化しました。支援が届きにくい子どもたちに効果的にアプローチできるよう、さらなるデジタル技術への投資も進めています。また、現地における政府、企業、NGOなどとのパートナーシップを深め、国の仕組みを強靱に強化しながら、業務の効率化を図ってきました。

人道支援や開発支援に投じられる資金は、長期的な利益を生み出し、より安定した安全な世界の基盤を築くことができる投資とも言えます。支援は、国境を越えた感染症の拡大を防ぎ、政情不安や暴力のリスクを軽減する役割を果たします。



予防接種、栄養、安全な水や基本的な衛生へのアクセスといった効果が実証済みの支援を世界規模で行うことで、今日も数百万の子どもたちの命が守られています。私たちとパートナーは、今日まで歴史的な前進を遂げてきました。2000年以降、世界の5歳未満児の死亡率は半分にまで減少。さらに何百万人もの子どもたちが、健康を守られ、より明るい未来を手にかけています。

適切な政策選択と十分な投資がなければ、こうした努力は水泡に帰し、予防可能な原因で命を落とす子どもが数百万にもものぼる危険があります。それを見逃すわけにはいきません。

不確実で困難なこの時代に、私は現場で直接この目で、とりわけユニセフが子どもたちの権利と健やかな成長を守る確かな砦となっていることを見てきました。

世界規模の活動基盤と強力なパートナーシップを活かし、ユニセフは他ではなし得ないことを実現しています。危機には素早く対応しながら、将来に備えた強靱な仕組みを築いているのです。

創設以来約80年にわたって続けてきたように、ユニセフはこれからも世界中の子どもたちに寄り添い、支援を届け続ける決意です。そのためには皆さまのご支援が欠かせません。

ユニセフは、世界の子どもたちのためのご寄付を続けていただけるよう、すべてのご支援者の皆さまに対し、お願い申し上げます。いま、子どもたちを見捨てるわけにはいかないのです。



ファトゥマさんは予防接種のために、ユニセフの移動保健センターまで、2時間近く歩いて子どもたちを連れてきました。肺炎、肝炎、ポリオ、ロタウイルスを防ぐ大切な接種です

エチオピア、2024年7月30日

© UNICEF/UNI623516/Dejongh

# 子どもたちに 寄り添い、 支援を届ける

**国の予算からのほんのわずかな投資が、何百万もの人々の暮らしを変え、より安定し、より安全な世界の実現につながる——そんな未来を想像してみてください。これこそが、人道支援と開発支援の持つ力です。**

この数十年で、世界は子どもたちのために目覚ましい進展を遂げてきました。2000年以降、世界の子どもの死亡率は50%以上減少し、発育阻害も4分の1以上減りました。2010年以降はHIV予防サービスの拡充により、HIVに感染する思春期の女の子の数も半減しています。さらに現在、出生登録される子どもが増え、教育や医療といったサービスを受けやすくなりました。今日、世界人口の半分以上が、少なくともひとつの社会的保護制度の恩恵を受けています。

この成果は、適切なリーダーシップとパートナーシップ、政策や資金的な後押しがあれば、私たちは子どもたちの生活を大きく、そして意味のあるかたちで改善できることを証明しています。

クイル州キクウィットでポリオの予防接種を受けるプロメディくん（3歳）。ユニセフはパートナーと協力し、この地域全体で大規模なポリオ予防接種キャンペーンを展開しています。地域のボランティアや保健員が中心的な役割を担い、支援の届きにくい人々にワクチンを届けています

**コンゴ民主共和国、2024年12月5日**

© UNICEF/UNI766163/Ndomba Mbikayi

ただし、進展の度合いにはばらつきが見られます。高所得国の子どもたちに比べて、低所得国の子どもたちは、持続可能な開発目標（SDGs）達成に向けてより迅速かつ集中的な取り組みが必要とされる国に住んでいる割合が7倍にも上ります。さらに、女の子、障がいのある子ども、移民、難民・避難民の子ども、先住民族の子ども、貧困家庭や支援が届きにくい地域・集団に暮らす子どもなど、あらゆる所得層において、今もなお取り残され続けている子どもたちがいます。

従来の支援国による援助予算の削減に加え、必要性にあわせて柔軟に活用できる資金の減少が続いていることで、ユニセフと国連のパートナーは、開発支援と人道支援の両面において、届けられるはずの支援を届けられずにいます。





ユニセフはすべての子どもの幸福を守るために尽力してきました。しかし、その比類ない活動範囲はいま、危機に直面しています。

- ・ ユニセフは190以上の国と地域で活動し、高い専門性と強い使命感を持つ職員とパートナーによる広範なネットワークを基盤にしています。実績ある取り組みを柔軟に応用し、規模を拡大することで、世界各地の多様な課題に対応しています。
- ・ またユニセフは、世界最大規模の人道支援物資倉庫を運営し、安全な水や衛生用品、教育、保健、栄養、さらには医薬品まで、必要不可欠な物資を備蓄しています。このような規模・到達力・専門性があるからこそ、私たちは命を救い、緊急事態が大規模な危機に発展するのを防ぐことができます。
- ・ 世界の赤ちゃんの4人に1人が誕生する保健センターを、ユニセフは支援しています。

- ・ ユニセフは世界最大のワクチン購入機関であり、さらに「すぐに食べられる栄養治療食（RUTF）」の供給者として、重度の栄養不良に苦しむ子どもたちが治療を受けられるようにしています。

- ・ また、水、トイレ、衛生サービスの最大の提供機関でもあり、100を超える国と地域で3,500万人以上に安全な水を届けています。

皆さまの変わらぬご支援のもと、ユニセフはこれからも子どもたちに寄り添い、支援を続けていく決意です。

**子どもの権利を守るために、  
声を上げ行動するのは誰か。**

**— それは私たちです。**



ユニセフの声：  
**ユース・アドボケイト  
(若者たちの代弁者)**

「もし世界がすべての子どもを社会の一員として受け入れてくれたら、世界はもっときれいで、もっとのびのびとして、笑顔いっぱいの場所になると思います。まるで子どもたち自身のように。すべての子どもに同じ権利と機会があることをわかってもらいたいです。若者はみんな行動しよう。若者と子どもたちが、この世界の未来であり、地球を続けていく存在なんです」

**パノスくん (13歳、ギリシャ)**

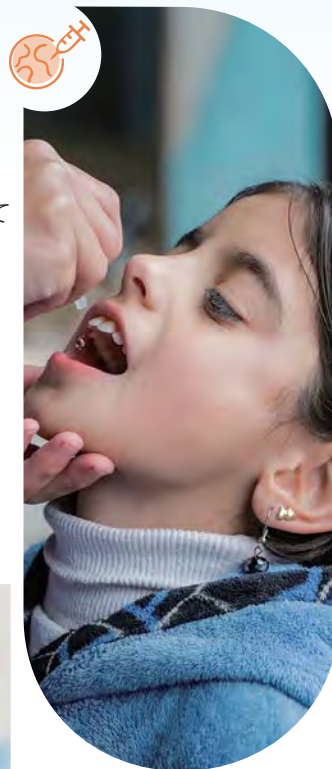
© UNICEF/UNI487025/Panteliav



# 2024年 ユニセフの 活動における 10の成果

## 予防接種

ポリオワクチンは  
87カ国で  
**15億回以上投与**され、  
2023年から2024年にかけて  
世界全体のポリオ症例数を  
約25%減少させる  
一助となりました



## 人道支援

**104カ国**で発生した  
448件の緊急事態において、  
数百万人の子どもたちに  
人道支援が届けられました



## 栄養

**5歳未満の子ども  
2億5,100万人**が  
消耗症の早期発見  
サービスを受け、  
930万人が重度の消耗症や  
その他の重度の  
急性栄養不良の治療を  
受けました



## 気候変動

気候関連プログラムは、  
2022年の68カ国から  
拡大し、**102カ国**で  
実施されました



## 教育

**学校に通っていない  
子どもや青少年  
2,600万人**が  
教育を受けられるよう  
になりました。そのうち  
900万人は人道危機下  
にある子どもたちであり、  
370万人は移動を強いられ  
ている子どもたちです





## 気候変動



**670万人**が

気候変動に対応した  
給水システムを利用しました  
(2022年の540万人から  
増加)



## 子育て支援プログラム

**1,850万人**の**保護者**や

養育者が、ユニセフの支援する  
子育てプログラムを利用しました  
(2022年の1,180万人から増加)



## アドボカシー



110カ国において、  
暴力を受けた**620万人**  
**の子どもたち**が、  
保健、ソーシャルワーク、  
法的支援、または警察・  
司法当局による支援を  
受けました。これは  
2023年から36%の  
増加となります



## 水と衛生

**1,800万人以上**が

基本的な衛生施設を  
利用できるようになり、  
3,300万人以上が  
安全な水に、そして  
2,100万人以上が基本的な  
手洗い設備にアクセス  
できるようになりました



## 子どもの保護

**91カ国**が、

パートナーとの協力や  
アドボカシーを通じて、  
子どもへのより効果的な  
投資を進めるための  
支援を受けました  
(2022年の78カ国から  
増加)





1

# 目標分野

「ユニセフは、子どもの権利条約に基づく子どもの権利に関連する **5つの目標分野** において、長期的な成果を達成することを目指しています。これは、人道危機や脆弱な環境を含むあらゆる状況において、青少年を含むすべての子どもが、以下を確実に達成するためのものです： **(1)** すべての子どもが命を守られ、健全に発育すること **(2)** すべての子どもが学ぶ機会を得ること **(3)** すべての子どもが暴力や搾取から守られること **(4)** すべての子どもが安全で衛生的な環境で暮らすこと **(5)** すべての子どもが人生において公平な機会を得ること」

## 目標分野 1

すべての子どもが命を守られ、  
健全に発育すること

## 主要な成果

➤ 89カ国で3,560万件の出生が支援され、新生児期および小児期の疾病管理を通じて6,340万人の子どもが恩恵を受け、120万人の医療従事者が研修を受けました。

➤ 思春期の健康に関する取り組みは、2021年の27カ国から2024年には44カ国へと拡大し、970万人を超える思春期の子どもたちに支援を届けました。メンタルヘルスおよび心理社会的支援は、プライマリ・ヘルスケア（地域に根ざした包括的保健医療）、学校、デジタル・プラットフォームを通じて45カ国で提供され、530万人以上の子ども、若者、家族が恩恵を受けました。

➤ 5歳未満の子ども4億4,100万人が、発育阻害、消耗症、微量栄養素欠乏および肥満を予防するプログラムの恩恵を受け、930万人の子どもが重度の消耗症やその他の重度の急性栄養不良の治療を受けました。

➤ 28億回分のワクチンが99カ国に供給され、1億1,040万人の子どもが麻疹の予防接種を受け、そのうち2,460万人は緊急時に接種されました。2,500万人以上の思春期の女の子がHPVワクチンを接種し、17カ国で新しいマラリアワクチンが導入されました。

強制移住、気候変動、環境破壊、災害リスク、紛争、保健サービスへの不平等なアクセス、感染症の増加などが、世界中の子どもの生存と発達を脅かしています。ワクチンを1回も接種していない「ゼロ投与」の子ども数は、2022年以降60万人増加し、合計で1,450万人に達しました。これは2019年と比べて170万人多い数字です。幼少期に十分で多様な栄養を摂取できない「食の貧困」は、5歳未満の子ども1億8,100万人と、約1億9,300万人の子どもに発育阻害や消耗症をもたらしています。

こうした課題に対処するため、ユニセフは2024年、プライマリ・ヘルスケア（地域に根ざした包括的保健医療）の強化と保健システムの整備に注力し、各国政府による医療サービスの対象拡大と人材育成を支援しました。

ユニセフの支援により、2021年の61カ国から拡大して、87カ国が幼少期の発達支援をプライマリ・ヘルスケアに統合し、130カ国で子どもの栄養および子どもの発達支援プログラムが実施されました。

2024年には、158カ国で目標分野1の下でプログラムが実施され、世界全体で総額24億米ドルが支出されました。そのうち7億米ドルは人道支援に充てられました。

子どもたちはポリオワクチンを接種したことを示すために、インクのついた指を見せています

マダガスカル、2024年5月15日

© UNICEF/UNI587855/Ramasomanana







アブダラくんは4歳のとき、重度の栄養不良に陥り動けなくなり、将来が不確かでした。しかし、ユニセフの「すぐに食べられる栄養治療食（RUTF）」のおかげで、現在は健康を取り戻し、就学の準備をしています。母親のハワ・アブドゥさんは深い感謝の気持ちを語ります。「アブダラの回復は奇跡です。私たちに未来への希望を与えてくれました」

カメルーン、2024年10月14日

©UNICEF/UNI663116/Beguel





## 目標分野2

すべての子どもが  
学ぶ機会を得ること

## 主要な成果

➤ 学校に通っていない子ども2,600万人（人道危機の状況下にある900万人、移動中の子ども370万人を含む）が教育を受けられるようになりました。教材は1,750万人の子どもに届けられ、そのうち27%は危機的状況にある地域の子どもたちでした。

➤ 若者たちが地域社会の課題を発見し、自ら解決策を考え実行する力を育むユニセフのスキル開発プログラム「UPSHIFT」は、56カ国に拡大し、210万人の若者が参加しました。このうち110万人が全課程を修了し、修了証を取得しています。

➤ 1,800万人以上の子どもが、教育用のデジタルサービスを通じて学びの機会を得ており、そのうち1,000万人は、ユニセフの「ラーニングパスポート」を利用しています。OpenAIと共同で開発した「だれもが使いやすいデジタル教科書」の取り組みでは、11カ国の200万人の子どもに、63言語に対応した言語にかかわらず利用できるデジタル教材が提供されました。

➤ ユネスコ、教育基金「Education Cannot Wait（教育を後回しにはできない）」、教育のためのグローバル・パートナーシップ（GPE）との協力により、子どもや若者が将来に向けて必要な力を身につける教育制度を導入する国の割合は、ほぼ倍増し42%に達しました。ここでいう「必要な力」とは、学習能力や自分らしさを伸ばす力、環境を守る意識、社会に積極的に関わる姿勢、人とのつながりを築く力、職業能力、そして起業家精神を育むことなどが含まれています。

世界で2億5,100万人の子どもと若者が学校に通っていません。このうち半数はサハラ以南のアフリカに住み、また33%は低所得国にいます。さらに、長期的な気候変動や異常気象事象によって、2024年には少なくとも2億4,200万人の生徒が休校を余儀なくされました。

ユニセフの取り組みにより、子どもたちが質の高い学びに触れる機会が広がり、教育システムの改善が進みました。学習成果の向上とともに、教育分野におけるレジリエンス（回復力）も強化されています。

アブドラ・ナジの国内避難民の集会所で、子どもたちがeラーニングの授業に参加しています

スーダン、2024年6月25日

© UNICEF/UNI599906/Elfatih







ユニセフの声：  
ユース・アドボケイト（若者たちの代弁者）

「私は、すべての女の子が教育を受け、夢見る力を持ち、自分の可能性を最大限に発揮できる未来を思い描いています。私たちはそれぞれのかたちで、それぞれの人生のヒロインなのです。未来の課題に立ち向かう準備はできています。でも、皆さんの支えなしには、それを実現することはできません」

トゥボキグウェさん（16歳、タンザニア連合共和国）  
© UNICEF/UNI731335/Znidarcic



政策提言、就学を促す支援制度、インターネットアクセス格差の是正戦略を通じて、ユニセフは社会的に取り残された子どもや若者、とりわけ女の子や障がいのある子どもに公平な就学機会を広げています。

2024年、ユニセフは142カ国で目標分野2の活動を実施し、総支出は16億米ドルに上りました。そのうち9億2,200万米ドルは人道危機の状況下での教育機会の確保や、教育制度の変革、レジリエンス（回復力）強化に充てられました。

## 目標分野3

# すべての子どもが 暴力や搾取から守られること

## 主要な成果

- 暴力を受けた620万人の子どもたちが、110カ国において、医療、社会福祉サービス、法的支援、そして警察などの法執行機関による保護を受けました。これは2023年から36%の増加となります。
- 19カ国で約75万9,000人の女の子や女性が、女性器切除（FGM）から守るための予防・保護の支援を受けました。50カ国で約1,070万人の思春期の女の子が、児童婚に対処するための予防やケアの支援を受けました。
- 119カ国では、子どもへの性的虐待や搾取、オンライン上での暴力から守るため、法制度や政策の整備を進める取り組みを支援しました。
- ユニセフは、初の「子どもに対する暴力根絶のための世界閣僚会議」をパートナーとともに開催し、その結果、113の国の政府から子どもへの暴力をなくすための政策や資金を見直す約束を新たに受け付けました。

1989年の「子どもの権利条約」採択以来、目覚ましい進展が見られたものの、子どもの保護に関連するSDGsの多くは、依然として達成の見通しが立っていない状況です。児童婚や女性器切除（FGM）の件数はともに低下したものの、これらの有害な慣行を根絶するには不十分です。子どもへの暴力は依然として広く存在しており、家庭内では3人に2人が頻繁に体罰を受けています。2024年には、15～19歳の思春期の女の子の6人に1人が夫やパートナーから身体的または性的暴力を受け、またおよそ4人に1人の子どもが身近なパートナーによる暴力を受けた母親とともに生活していることが確認されました。

イサトゥ・サネさん（15歳）は、クウィネラ中等学校で児童婚について話しています

ガンビア、2024年2月12日

© UNICEF/UNI583217/Prinsloo







父親に連れられ、マットレスに乗って家に帰る女の子。70年ぶりにベトナムを襲った最強の台風ヤギの被害を受けたホアンキエム地区にて

**ベトナム、2024年9月11日**

© UNICEF/UNI642519/Nong Viet Linh



政情不安にある国や紛争の影響を受ける国で暮らす子ども、移動を余儀なくされている子ども、家族の保護を受けられない子ども、そして罪を犯したとされる子どもたちは、暴力や搾取、育児放棄などの危険にさらされる可能性が特に高くなっています。

2024年、ユニセフは子どもを保護するための制度を強化する取り組みを引き続き推進しました。人道支援の場面でも開発支援の場面でも、すべての子どもを守ることを目指した、包括的で総合的な戦略です。

この目標分野への資金が減少する中でも、ユニセフは157カ国で子どもを守るための活動を続けました。2024年、目標分野3の支出総額は9億3,000万米ドルで、そのうち人道支援には4億5,000万米ドルが充てられました。

## 目標分野 4

# すべての子どもが 安全で衛生的な環境で 暮らすこと

## 主要な成果

➤ 1,800万人以上が基本的な衛生施設を、3,300万人以上が安全な水を、2,100万人以上が基本的な衛生サービスを利用しました。

➤ 人道危機下での水と衛生サービスを通じて、30カ国以上で4,100万人が支援を受けました。

➤ 約9,000の学校と約4,000の医療施設で、基本的な水と衛生サービ

スの提供が進みました。また、ユニセフの取り組みにより、約1,200万人の女性と思春期の女の子が、月経中の健康や衛生面で安心して過ごすための支援を受けました。

➤ ユニセフは、66カ国の医療施設で再生可能エネルギーを導入し、子どもたちが安心して電力を使える環境づくりを進めました。あわせて、670万人が気候変動の影響を受けに

くい安全な給水システムを、300万人が同じく気候変動の影響を受けにくい衛生施設を利用しました。

➤ 「グリーン・ライズング」の取り組みを通じて、30カ国の1,100万人の若者が1,900万本の植樹を行い、6億リットルの水を節約し、7万5,000キログラムを超えるごみをリサイクルしました。



ユニセフの声：  
ユース・アドボケイト  
(若者たちの代弁者)

「みんなのためになることを実現するためには、みんなの協力が必要です。自分のことだけを考えるのではなく、力を合わせて取り組まなければなりません。  
地球の環境はひとつしかありません。だからこそ、守っていかなければならないのです」

マリアさん (15歳・バルバドス)

2024年9月23日、  
ニューヨークのユニセフ本部にて  
© UNICEF/UNI649793/Znidarcic







8歳のアフメドくんは冷たい水をごく  
りと飲み、暑さをしのぎようとしていま  
した。気温47°Cの猛暑の日、パンジ  
ャブ州ファイサラバードにて

パキスタン、2024年5月28日

© UNICEF/UNI585292/Ahmed



2015年から2024年にかけて、安全に管理された飲み  
水を利用できる人の割合は69%から77%に増えました。  
基本的な飲み水（供給サービス）を含む安全に管理され  
た衛生施設を利用できる人の割合も49%から63%に上  
昇し、石けんと水での手洗いが可能な基本的な手洗い設  
備を利用できる人も67%から75%に増加しました。

それでもなお、世界では22億人が安全に管理された飲  
み水を利用できず、34億人が安全に管理された衛生施  
設を持たず、20億人が基本的な衛生サービスを利用で  
きません。その結果、子どもたちは病気になりやすく、  
女性や女の子たちは水汲みのために長時間、重い労働を  
強いられています。

紛争や感染症の流行、経済危機、気候変動など、さまざ  
まな課題が重なり合い、水と衛生分野のSDGs達成に向  
けた前進を妨げています。

ユニセフは、特に弱い立場にある人々への支援を確実に  
行うため、安全な水や衛生サービス提供の確保と仕組み  
の整備を進め、水や衛生サービスの直接支援で大きな成  
果をあげました。

ユニセフは「持続可能性と気候変動アクションプラン  
(2023-2030)」に沿って、子どもたちを取り巻く社会  
環境が気候変動や災害に強いものになるよう支援を拡大  
しました。対象国は2023年の68カ国から2024年  
には119カ国へと増え、事業の実施や調査、政策づくり、  
政策提言、政府の予算編成など、幅広い取り組みに持続  
可能性と気候変動への対応を組み込んでいます。

69カ国と協力し、環境や防災に関する政策を改訂しま  
した。これにより、子どもに配慮した防災活動が社会の  
さまざまな分野でより適切に取り入れられるようになって  
います。

2024年、ユニセフは154カ国で目標分野4に取り組み  
ました。総支出は10億米ドルを超え、そのうち5億米  
ドルは人道危機下での水と衛生の支援に充てられまし  
た。

## 目標分野5

すべての子どもが人生において  
公平な機会を得ること

## 主要な成果

- 開発支援と人道支援の両分野をあわせて、1億200万世帯以上にユニセフ支援による現金給付を届けました。
- 91カ国では、子どもへの投資を拡充・改善するために社会分野の予算強化を後押ししました。これは2023年の84カ国から増え、目標の69カ国を大きく上回りました。
- 測定や分析、政策提言を通じて、43カ国で子どもの貧困削減に向けた政策やプログラムづくりを後押ししました。これは2021年の32カ国から増加しています。
- 障がいのある子どもを含めた社会的保護の実施は77カ国で支援し、2023年の67カ国から増加しました。
- さらに18カ国で、都市部、スラム、非公式居住地における子どもの健やかな成長を妨げる構造的な障壁に対応するため、子どもに配慮した都市政策や計画基準の改善を進めました。これは2023年の15カ国から増加しています。

子どもの貧困削減の取り組みは近年鈍化しており、世界では約10億人の子どもが多次元貧困の中で暮らしています。世界の人々の半数以上が現在、少なくともひとつの社会的保護を受けている一方で、子どもの場合は、何らかの支援を受けているのはわずか4人に1人とどまっています。多くの国では、増え続ける債務返済により、社会福祉分野への支出が制約を受けています。



ユニセフの声：  
**ユース・アドボケイト**  
(若者たちの代弁者)

「貧困に立ち向かうと決意することは、みんなにとってより良く、公平な世界へ大きな一歩を踏み出すことだと思います。  
どんな場所で生まれた子どもでも、大きな夢を描くチャンスを持つべきです」

ロヴァくん

(14歳、マダガスカル、2024年3月6日)

© UNICEF/UNI586562/Andriantsoarana







11歳のヴァンコ・クリステラ・イラコゼさんは、ユニセフから提供された松葉づえを使って、自宅の敷地内を歩けるようになりました

ルワンダ、2024年12月4日

© UNICEF/UNI725203/lyakaremye



2024年、ユニセフの取り組みにより、持続可能で包摂的、かつ緊急時にも対応できる社会的保護制度への投資が大きく進みました。また、公的機関や民間部門が、子どもに配慮した政策に取り組む流れを後押ししました。

各国政府と協力し、貧困の実態を測る取り組みや、社会的保護への資金拡充、現金給付をほかのサービスと組み合わせて届ける仕組みづくりを進めています。

2024年、ユニセフは155カ国で目標分野5に取り組み、総額8億2,000万米ドルを支出しました。そのうち5億7,400万米ドルは人道支援活動に充てられました。ユニセフ支援による現金給付は2024年にさらに拡大し、脆弱な状況や人道危機の中で暮らす360万世帯を支えました。

# 人道支援

紛争や災害が起きると、子どもたちが最初に被害を受け、最も大きな苦しみを背負うことになります。緊急時や人道支援の現場において、子どもたちは病気や栄養不良、暴力といったリスクにさらされやすい状況にあります。

ユニセフは、こうした子どもたちとその家族に寄り添い、命を守るために不可欠な支援を届け、あらゆる場所ですべての子どもの権利を守ることを大切にしています。

また、人道支援と開発支援のつながりを強めることにも力を注いでいます。私たちは、緊急事態が起きる前から、その最中、さらにその後も各国で活動を続け、必要な支援が途切れないよう取り組んでいます。例えば、水と衛生のシステムを修復・改善することで、支援を必要とする世帯に対し、危機の最中にも長期的にも役立てることができます。

しかし、人道支援のための資金はますます限られてきています。従来の支援国による援助予算の削減に加え、ユニセフや国連機関が活用できる柔軟な資金も減少し続けているのです。国際社会の対立や経済の分断が、子どもの権利にますます深刻な脅威をもたらしています。暴力的な紛争や気候変動が、人道支援の必要性を継続的に高めているのです。

2024年、ユニセフは世界的な現場ネットワークと専門性を備えたスタッフ、パートナーの協力を活用し、人道危機対応を含む子ども関連のSDGsの達成に向けて取り組みました。

- ・パートナーと協力し、104カ国で発生した448件の緊急事態に対して人道支援を実施しました。
- ・ユニセフは、各国が地域主導で人道対応を進められるよう、内部の方針や手順を見直し、よりわかりやすくしました。その結果、現地

の団体や関係者との協力が、より効果的かつ持続可能なものへと進化しています。

- ・人道危機下において、ユニセフは4,040万人以上に子どもの保護サービスを提供しました。また、紛争や避難、自然災害によって家族と離ればなれになった12万4,000人以上の子どもに対し、一時的な保護や里親制度などの代替的な養護を提供するとともに、家族と再び暮らせるよう支援を行いました。さらに、武装勢力と関わりを持っていた1万6,482人を超える子どもに保護や社会復帰の支援を実施するとともに、地雷やその他の爆発性兵器の影響を受ける750万人以上の子どもに対しては、被害を防ぐための教育や安全対策、そして被害を受けた子どもへの支援を行いました。



ユニセフの声：  
**ユース・アドボケイト**  
(若者たちの代弁者)

「紛争は大人によって引き起こされるものですが、その最初の犠牲者となるのは子どもたちです」

アドニスさん（16歳、  
コンゴ民主共和国、2024年3月25日）

© UNICEF/UNI550564/Ntabala



2

# 变革战略

## 変革を実現するためのアドボカシー（政策提言）と広報活動

子どものためのアドボカシー（政策提言）と広報活動は、その形がどんなに多様であっても、ユニセフの使命の根幹をなすものです。こうした活動を通じて、各国政府が子どもの権利を実現するよう働きかけています。

2024年、ユニセフはアドボカシー（政策提言）と広報活動を通じて、以下のような成果を上げました。

- ・ 90カ国において、ワクチンの価格を抑え、より多くの人が公平に摂取できるよう支援しました。
- ・ 110カ国において、学習上の課題に取り組みました。
- ・ 60カ国において、子どもや若者に対するメンタルヘルス支援を強化しました。
- ・ 90カ国において、清潔な水へのアクセスを拡大し、環境悪化および気候変動への対処を進めました。
- ・ 110カ国において、社会的保護を推進しました。

アドボカシーの取り組みにより、ポリオ根絶に向けた21件の政府の約束が実現し、「世界ポリオデー」などのキャンペーンを通じて市民の支持を広く集めました。「Humanly Possible（人類の力をもって可能なこと）」キャンペーンでは、定期予防接種の支援としてGaviワクチンアライアンスに30億米ドルの寄付が集まりました。さらに、子宮頸がん撲滅フォーラムではHPVワクチンのために6億米ドルが調達され、世界全体でのHPVワクチン接種率の改善がすでに実現しています。

栄養分野でのアドボカシー活動は、子ども栄養基金を通じて大きく前進し、数百万ドル規模の資金拠出が確約されました。その中には、複数の微量栄養素のサプリメントにあてられる3,440万米ドルも含まれています。

気候変動に関するアドボカシー活動により、子どもの権利と声が世界的な気候議論の中心に据えられました。COP29では、子どもに配慮した文言が最終文書に盛り込まれるという新たな節目を達成しました。COP29におけるユニセフの働きかけにより、気候変動への適応や資金の世界目標に子どもに関する指標が加わりました。さらに、気候交渉において子どもの権利を推進する友好国グループも立ち上げられました。また、66カ国が「子ども、若者、気候変動対策に関する宣言」を支持しました。

36カ国で、子どもの権利を守るために、企業のあり方に関する法律や基準が見直されました。ユニセフのアドボカシー活動により、EUの企業持続可能性デューデリジェンス指令（CSDDD）において子どもの権利の保護が強化され、子どもの権利条約への明示的な言及が盛り込まれました。

セリーヌさん（13歳、中央）は8年生（日本の中学2年生に相当）で、ヨルダン唯一の沿岸都市アカバに住んでいます。彼女は学校のユニセフ支援「気候アクションクラブ」のメンバーです。クラブの取り組みの一環として、生徒たちは海岸の清掃活動に参加しています



ヨルダン、2024年1月

© UNICEF/UNI574356/Al-Safadi





2024年2月、ユニセフは英国外務国際開発省（UK-FCDO）の支援を受け、18台のトラックによる車列を編成し、数千世帯の避難民とその子どもたちに不可欠な物資を届けました

パレスチナ ラファ、2024年2月

© UNICEF/UNI599906/Elfatih

## 不可欠な物資を支えるグローバルネットワーク

2024年、ユニセフは160の国と地域で、総額56億米ドル相当の物資やサービスを子どもたちのために調達しました。その中には28億回分のワクチンが含まれ、世界の5歳未満の子どもたちのほぼ半数に届けられる規模に相当します。人道支援活動の一環として、ユニセフは2024年に68の国と地域で総額12億米ドル相当の緊急物資を提供しました。

ユニセフは世界に広がる供給ネットワークを通じて、人道支援や開発の現場で、子どもたちに欠かせない物資やサービスを調整・調達・提供しています。これには、命を守るワクチン、保健・栄養関連の物資、水と衛生用品、教育教材、建設サービスなどが含まれます。

2024年、ユニセフは183カ国にわたる12,154の供給業者から調達を行いました。そのうち、プログラム実施国に登録された供給業者からの調達は、全体の57%を占めました。こうした現地調達の拡大は、持続可能性の強化、各国のシステムの強化、そして子どもたちへのより大きな成果につなげるというユニセフの姿勢を反映しています。

# 若者の参加を推進する

若者のために活動することは、若者とともに活動することを意味します。ユニセフは、190を超える国と地域の現場チームと共に、そしてオンライン上でも、グローバルな課題に取り組む若者を、世界の他のいかなる子どもの権利団体よりも多く巻き込んでいます。

2024年には、67カ国で青少年や若者の参加を支える国家制度を後押ししました（2021年の22カ国から増加）。青少年の参画を促進し、彼らが政策形成に参加できるように制度や対話の場を活用できるよ

う支援しました。99のユニセフ事務所が各国でどんな支援を優先するかを考える際に、若者たちの意見を聞きました。これは目標としていた60事務所を大きく上回り、プログラムが若者のニーズに沿うようにするための取り組みです。

また、ユニセフは「世界の女の子リーダー助言グループ（Global Girl Leaders Advisory Group）」を立ち上げ、思春期の女の子に関する活動の優先事項をともに検討しました。2023年に発足した同グループはすでに大きな進展を遂げており、2024年には、各国でユニセフの活動に関わる思春期の女の子や若い女性の新たなメンバーを

迎え入れました。このグループは、世界規模の世論調査の企画・実施を主導し、50万人を超える子どもや若者が女の子の権利に関する政策優先事項について声を上げました。

ユニセフの若者参加のためのデジタルツール「U-Report」は105の枠組みに拡大し、74カ国で190万人のユー・レポーターたちが協力して活動し、意識を高め変化を求める声を届けました。



ユニセフの声：  
**ユース・アドボケイト**  
(若者たちの代弁者)

「人々に知ってほしいのは、インクルージョン（包摂）とはたんなる言葉ではなく実践すべき大切な考え方であるということです。どんな背景を持っていても、どんな困難に直面していても、すべての子どもが平等に輝くチャンスを得られる世界であるべきです。すべての子どもには、制限なく自分の夢を追いかける機会が与えられるべきです」

**ガウランシさん（17歳、インド）**

© UNICEF/UNI570268/Vishwanathan

若者たちの代弁者として活躍する（前列左から）カルティクさん、ガウランシさん、ナヒドさん、ヴィニーシャさんとユニセフ職員。デリーにて

**インド、2024年5月3日**

© UNICEF/UNI570268/Vishwanathan



## 地域社会の関与と社会・行動変容

ユニセフは2024年、99カ国で調査活動を主導し、人々の行動や考え方、社会的な背景が支援サービスの利用や日常の習慣にどう影響しているかを把握しました。また、113カ国で研修を実施し、政府関係者、地域社会の担い手、大学などの教育機関がより効果的に活動できるよう能力強化に努めました。

さらに、障がいのある子どもとその家族が直面する障壁の解消に向け、115カ国で社会・行動変容の取り組みを支援しました。こうした活動には、2024年に「子どもたちのための人道支援（Humanitarian Action for Children：HAC）」の資金要請を展開した40カ国のうち28カ国（ソマリアやイエメンを含む）における、障がいに配慮した人道支援の強化も含まれます。

## ジェンダー平等の実現

女の子と男の子に平等な権利を保障する社会は、すべての人に利益をもたらします。しかし、思春期の女の子は、心身両面に悪影響を及ぼす差別的な慣行にさらされることが少なくありません。世界的に見ると、思春期後期までに教育・就労・職業訓練のいずれにも参加していない女の子は男の子の約2倍にのびります。

2024年には、緊急時におけるジェンダーに基づく暴力（GBV）への対応、防止、リスク軽減プログラムを79カ国で展開し、1,760万人以上に支援を届けました（2021年の1,390万人から増加）。また、暴力（GBV）のリスク軽減に関する最低基準の導入でも大きな前進があり、43%の国で完全に実施されました。さらに、安心して使えるオンライン相談窓口「Laaha」を通じて、50万人を超える女性と女の子が、性と生殖に関する健康や暴力（GBV）への対応についての情報や支援を受けられるようになりました。

2024年には、129カ国の事務所のうち90%が、子どもの権利に関するジェンダー平等を推進する方針やプログラムに資金を提供しており、2021年の66%から増加しました。

ユニセフはまた、86カ国で、ジェンダーに基づく役割や規範、慣行に取り組む大規模プログラムを支援しました。

加えて、74カ国において、現場の実務者を対象としたジェンダー平等に関する大規模な研修プログラムを実施し、2021年の50カ国から拡大しました。

## イノベーションの活用

ユニセフは、すべての子どもたちに新たな可能性を届けるため、イノベーション（革新的な取り組み）の力を活用しました。

2024年には、教育、子どもの保護、社会政策、資金調達の分野でデジタル変革を進め、デジタルを活用するスキルの強化や安全の確保、AIの導入を通じて、事業のスピードと質を高めました。

特に人道支援の現場では、技術革新が事業運営や対応の迅速化に大きく貢献しました。2014年以降、ユニセフは138カ国で、子どもたちの暮らしを良くするための新しい取り組み238件を後押ししてきました。

2024年には、「5つの視点から取り組みを見きわめる方法（5Dフレームワーク）」を活用し、子どもたちに大きな成果をもたらす革新的な解決策を見つけ、検証し、広げる支援をおこないました。この方法では、革新性、仕組みの持続性、成果の大きさ、広げやすさ、そしてリスクの有無という5つの観点から取り組みを評価することで、本当に効果的で長く続けられるもののみが推進されるようにしています。

ユニセフは、新興国の新しいアイデアを持つ人々と連携し、子どもたちのためになる新たな解決策を考え、試す取り組みを進めています。この「ベンチャー支援制度」を通じて、これまでに87カ国で153の取り組みを支え、1億2,860万人以上の人々に届けることができました。